流行例

〔類聚符宣抄三〕皰瘡事

發年々

天平七年始發、然而甚微也、又云、天平九年云々、　延暦九年自天平八年、至此年、五十三年、　弘仁五年自延暦十年、至此年、廿五年、

仁壽三年自弘仁六年、至此年、廿八年、　元慶三年自仁壽四年、至此年、廿六年、　延喜十五年自元慶四年、至此年、卅六年、

天暦元年自延喜十六年、至此年、卅二年、　天延二年自天暦二年、至此年、廿七年、　正暦四年自天延三年、至此年、十九年、

寛仁四年自正暦五年、至此年、廿八年、　長元九年自寛仁五年、至此年、十六年、

〔續日本紀十二聖武〕天平七年八月丙午、太宰府言、管内諸國、疫瘡大發、百姓悉臥、今年之間、欲停貢調、許之、閏十一月壬寅、是歳年頗不稔、自夏至冬、天下患豌豆瘡（俗曰裳瘡）、夭死者多、九年四月癸亥、太宰管内諸國、疾瘡時行、百姓多死、詔奉幣於部内諸社、以祈禱焉、又賑恤貧疫之家、并給湯藥療之、六月甲辰朔、廢朝、以百官官人患疫也、七月丁丑、賑給大倭、伊豆、若狹三國飢疫百姓、壬午、賑給伊賀、駿河、長門三國、疫飢之民、十二月丙寅、是年春、疫瘡大發、初自筑紫來、經夏涉秋、公卿以下、天下百姓相繼沒死、不可勝計也、近代以來未之有也、

〔赤斑瘡辨考證一〕按に、疫瘡（エキサウ）は、麻疹（アカモガサモ）、疱瘡（ガサ、ヤブイモ）、水痘などの總名なり、疫は周禮春官占夢の條の注に、疫厲鬼也、劉熙釋名釋天部に、疫役也、言有鬼行疫也、說文に、疫民皆疾也、和名抄鬼魅類部に、蔡邕獨斷云、昔顓頊有三子亡去而爲疫鬼、其一者居江水、是爲瘧鬼、和名衣也美乃加美（エヤミノカミ）、或於爾などみえて、時行病（ハヤリヤマヒ）の名なり、こゝに疫瘡とあるは赤斑瘡の事をいひしなり、

〔賀茂保憲女家集〕この歌はあめのみかどの御時に、もがさといふものおこりて、やみける中に、かもうぢなるをんな、よろづの人におとれりけり、さる中に、たゞもがさをなむ、すぐれてやみける、かさのみにもあらず、おほくのやまひをぞしける、からうじてこの歌よりなん、よみがへりける、そのほど冬のはじめ、秋のをはりなりければ、草木もかぜもやう〳〵かれもていく、つ